



マガンの初飛来を9月13日に確認しました。平年より7日早く、昨年より8日早い飛来です。

Vol.112
令和元年度10月号

小学生らが伊豆沼で漁師体験

伊豆沼周辺で『伊豆沼・内沼自然体験講座 伊豆沼漁師体験』を8月17日（土）と9月15日（日）に開きました。小学生ら20人が参加し、タモ網を使ってエビなどをすくったり、定置網で獲れた魚を分類したりしました。また、池の中に入り、つかごを使った魚捕りを体験しました。「詳しく説明してくれたのが良かった（9歳男子）」「絶滅危惧種を知ることができて良かった（9歳女子）」「色々な魚に触れ合えた（10歳男子）」「貝を探すのが楽しかった（6歳女子）」と感想が寄せられました。

タモ網で池をすくいます



沼に仕掛けた定置網にたくさんの魚たち



つかごで大物をつかまえるぞ



エビが獲れた



外来魚を分類しました



池でカラスガイと大きなフナ



フナも私も泥んこです

榎野川自然再生事業を視察しました



カブトガニ

伊豆沼・内沼で取り組まれている自然再生事業は、日本各地でも取り組まれています。9月18日（水）に、山口県の榎野川ふしのがわの自然再生事業を視察しました。ここの目玉の一つは「カブトガニ」。生きた化石とも言われ、産卵する貴重な生息地です。市民によるモニタリング事業が行われ、多くの参加者がいます。視察中には、2匹見つけることができました。貴重な生き物が息づく、豊かな自然。確認されるカブトガニも増えています。



榎野川（山口県）

一 迫小4年生がジオパーク学習に参加

8月30日（金）に行われた栗駒山麓ジオパーク学習に、栗原市立一迫小学校4年生48人が参加しました。今回のジオパーク学習では、水生植物園でのタモ網を使った生き物採集と水草の植栽を行いました。

生き物採集では、ヌマエビやヒメミズカマキリなど様々な生き物を捕獲。子どもたちは捕まえた生き物を真剣な眼差しで観察していました。

水草の植栽活動では、絶滅危惧種のガガブタとアサザを植栽しました。この植栽活動は、伊豆沼で行われている「よみがえれ在来生物プロジェクト」の一つで、市民の力を借りて在来生物を増やすのが目的です。

当日は天候に恵まれず小雨が降っていましたが、子どもたちは夢中になって活動に取り組んでいました。

池から生き物を探し中



色んな生き物がとれたよ



アサザとガガブタを植栽



植栽中にカラスガイを発見

伊豆沼・内沼生き物図鑑 カンタン ～ 鳴く虫の女王 ～



カンタンの成虫（オス）



カンタンはクズの草むらを好む

朝晩は冷え込むようになり、伊豆沼・内沼に住む鳴く虫たちは、セミの仲間からコオロギの仲間に移り変わりました。

鳴く虫と言えば、マツムシやスズムシが有名ですが、伊豆沼・内沼はこれらの虫が住むには寒すぎるようです。マツムシやスズムシに代わり、鳴く虫の主役を張るのが、“カンタン”です。クズやヨモギの多い草原に住むコオロギの仲間ですが、その姿形はコオロギとは似ても似つかないもので、透き通った薄緑色をしています。鳴き声は「ルルル・・・」や「リリリ・・・」と聞き慣れているもの悲しい印象を受けます。どことなく気品のある姿形や鳴き声のため、「鳴く虫の女王」と呼ばれています。しかし、鳴くのはメスではなくオスです。

伊豆沼・内沼周辺の草むらには、カンタン以外にもウマオイの仲間やツユムシの仲間、ヒメクサキリなどの鳴く虫が多く生息しています。これらは住み家が微妙に違っているため、鳴き声を頼りにこれらの虫を探して、習性の違いを考えてみるのも面白いと思います。

